

ホーム名：グループホーム安威ぼっぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は常に施設理念とふれあいぼっぼの五か条の共有に努め、朝のミーティング、月1回のスタッフ会議、重要連絡事項の回覧連絡帳などで理念の共有を実施している。	事業所の理念はわかりやすく、「ぼっぼの五か条」と共に目に付く場所に掲示してある。朝礼時、又毎月の会議で斉唱している。	理念、「ぼっぼの五か条」は徐々に浸透されてきたと管理者は感じている。対応、挨拶が更に和やかになり、家族の状況まで把握した上での支援というものを大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	入居者とともに、地域を散歩している。庭の花や植物を見て頂いたり、近所のお寺に出むき、住民の方達と触れ合える機会を持つ様になっている。自治会にも入会させてもらい、敬老会などのお誘いをしてもらっている。	地域の住民に少しずつ介護施設としての事業所の存在を受け入れられてきた。散歩時の挨拶や日常的な関わりも増え地域に溶け込んできている。地域の行事にも入居者の体調を見ながら参加している。	前回の訪問時に比べ、確実に地域住民に受け入れられている様子が見られる。今後も継続して良い関係を構築されることを期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ、見学希望があれば、全部受け入れるようにしている。	/	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや自治会長、福祉委員長や家族などにアドバイスを頂いている。地域の人たちに知ってもらうためアピールしている。	小規模多機能ホーム、安威ゆとりと合同で行っている。地域の福祉委員、地域包括、介護相談員がほぼ定着して毎回参加しており、活発な意見交換、事業所からの報告の様子が会議録から見て取れる。家族も参加しているが多くはない。	自治会長、民生委員、地域の有識者、介護相談員の参加も定着し地域の情報を得ることが出来ている。事業所の行事予定や実施報告についての議事録への記載の仕方を再考される事を期待する。更に多くの家族の参加を促すよう定期的にお誘いする方法、また参加できない家族への会議録の公開についての検討を希望する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の窓口や地域包括支援センターなどに様々な相談にのって頂いたり助言を頂いている。介護相談員の方にもきて頂いている。	市役所の窓口には頻りに顔を出し地域の独居高齢者のことから事務的な事まで相談し指示を得ている。書類は郵送ではなく手渡しにするなどお互いに顔の見える関係を大切にしている。	介護相談員は運営推進会議にも出席していて、会議後入居者との会話の時間も作ってくれている。入居者にとり楽しみな事と推察される。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	看護師を中心に研修し、常に職員が正しく理解出来るよう、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵を掛けなくても事故防止できるよう、常に職員が目の届く位置に居る様に心がけ、ドアにセンサーを設置し見守りをしている。	出来るだけ見守りを強化することで入居者の行動を制限しないよう支援している。玄関は自動開閉から手動には変わっているが施錠はされていない。窓も一般の鍵を使用している。マニュアルも整備され、看護師の「拘束」に関する講義も最近行った。	管理者はなぜ拘束しない方向で考えるべきなのかを職員にきちんと伝えている。今後も入居者の気持ちに寄り添って拘束のないようお互いに注意しあっていたきたい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市内研修で学んだり全職員が社内研修で話し合ったりしている。	/	/	

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>様々な研修会に参加できるようにする。定期的に内部研修を行ない研修内容を全員で把握し共有できるようにする。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に「お試し利用」を勧めている。現入居者と共に昼食を体験していただいたりしながら、説明納得した上で利用していただいている</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員、入居者と共に、家庭的な雰囲気を作り、自由に発言できるような空気を作り、改善している</p>	<p>面会時間の制限を無くすことで訪問が増えた。「苦情ノート」を整備し「意見箱」も設置しているがそこに入ることはほぼ無い。</p>	<p>入居者への対応については家族からの意見や要望を個別面談で聞き、担当者の意見を聞きながら支援の改善につなげるようにしている。突然の訪問や外泊にも対応しているし職員の笑顔での話しかけは家族の気持ちを穏やかにしている。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>朝礼や職員会議など日々、お互いに意見を出し合っている。希望があれば個別で行い、入居者の生活改善に役立っている。</p>	<p>小規模多機能と合同で月に一度全体会議を開催してその参加は13～14名。不参加の人には資料を配布し大まかな説明をしている。管理者は職員にとり話のしやすい存在で職員からの意見や提案も業務に反映している。</p>	<p>職員に自信を持ってもらうように対応する事、技術だけでなくコミュニケーションの大切さを伝えていくことで意見の出しやすい職場の雰囲気が出来てきている。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>運営者は管理者や職員と、なるべく多くの時間を共にするよう努力している。職員は入居者と一緒に習字や絵を描くなど、職員も楽しみを持ち過ごしている。おやつの際は入居者と一緒にお茶を飲みながら談話している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には、積極的に参加を促し、ミーティング時に報告している。資料を活用し伝達をしている。随時内部研修会をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市や地域主催の研修会にもさんかし、また、入居者の移転時などでは、相互訪問をするなど、交流を保っている。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お試し利用時に、職員とマンツーマンの時間を取り、充分話を聞いている。また、入居に際し、不安が無いよう「いつでも電話対応など可能」ということで、安心してもらっている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者の自宅に赴き、家族とも一緒に考え、対応している。利用者の要望に、いつでも沿えるよう努力している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者の自宅に赴き、家族とも一緒に考え、対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気の中で、共同作業や出来る事は自分でしてもらい、皆で支えあう家族のような関係を築いている。また、食器洗い、洗濯物干しや、たたむ等の手伝いを、職員と共にして貰っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会などの時、極力家族と共に話し合い、緊密化に努めている。電話相談にも常時応じて、安心感を持ってもらっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前住んでいた自宅周辺やお店、通院していた病院などに受診したりしている</p>	<p>以前から利用していた美容院に同行したり昔からよく使っていた駅や市役所近辺にドライブに行き、特に駅前は懐かしい場所ということで喜ばれている。</p>	<p>出来るだけ以前からの関係を継続出来るように、会話の中から一番楽しかった頃のことを聞き出す等しながら支援を続けられる事を期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>相性等もあり、座席の位置なども考えて生活してもらっている。出来ない事がある入居者には、他の入居者が助け舟を出したり、和気藹々とした関係が築かれるよう心配りをしている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院されたり、他の施設に入られたりしたときの面会、残された家族の様子を伺いに行くなどしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認し、個々にサービスを取入れている。やりたいと思う事は、出来る限り叶えてあげられるようにしている。家族と一緒に気持ちをつにしている	入居者の思いや希望をできるだけ叶えてあげようと努力している。その中には家族の思いも含まれている。	これからも笑顔で寄り添うことで入居者の思いに気づけるような支援を続けられたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	サービス開始時に、これまでの暮らしについては情報を得るが、日々コミュニケーションをとる中で、新たな情報についても把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少人数ということもあり、日々の状況把握は密に出来ていると思っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、関係者、家族に実際現場を見てもらい、家族に納得してもらったうえで話し合い介護計画を立てている。必要な場合は、主治医、看護師にも出席してもらう	介護計画は職員の日常の気づきを反映し、短期目標6ヶ月、長期目標12ヶ月として作成している。「体操やレクリエーションなどに参加する」「ホームの仲間や職員と楽しく時間を過ごせるようになる」等、身近な目標をたてて日々の支援に結びつけている。	介護目標は具体的に記されているが介護計画を実施した時の入居者の様子や問題点についての記録は明確でない。介護計画の項目ごとに介護記録に沿って検討し記録に残すことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に、日々の介護実践を記録し、責任者名を記入している。また、共通のノートを作り、気づきや伝達事項を書き入れ、共通認識を持つようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	精神状態や身体障害の程度に合わせて移動や入浴介助など考えてしている。また、通院に同伴したり、事業所に往診に来てもらっている。必要時医師の指示を受け、看護師が点滴や処置を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や組長の方に相談したり、近隣の方から暖房器具や飾り物などを頂いたりしている。消防署からの避難訓練の指導をもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に2度、施設に往診にきてもらっている。電話相談や急変時に往診に来て頂きお世話になっている必要時には病院から訪問看護にも来ていただいている。	協力医療機関の医師が週に二回往診に来ている。年に一度、歯科の定期検診がある。訪問調査日にも2名の入居者が歯科医院への通院予約日となっていた。	今後も医療機関との連携を取り、入居者が安心して暮らせるよう支援の継続を望む。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師が在籍し、常に適切な相談を受けられる体制になっており、かかりつけ医や医療機関との橋渡しをしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>面会時に、医師や看護師になるべく話を聞き、情報を頂いている。退院後、直ぐに対応できるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りについては、医師の意見と本人家族の要望に応じ、医師、家族、施設側とでカンファレンスを積み重ね納得していきながら進めている。</p>	<p>これまでに数名の看取りを施設で行っている。重度化した場合の意向はシートに記入してもらっているが本人家族のその時々を思いを確認し医師の意見を参考にしながら方針を決めている。最後の場にも家族の立会が出来るように配慮している。</p>	<p>独居の人が増えてきたので事業所で最後を迎えたいという希望が増えてきている。これまでの経験を生かして職員の研修にも反映させて入居者の安心につなげてもらいたい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師を中心に研修し、転倒や薬の管理等での事故防止に心がけている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署からの訓練を定期的に行なっている。内部研修の充実にも努め、日々避難の確認を行なっている。</p>	<p>消防訓練の計画は、雷による電線切断で警報装置が作動しなかったため行われず、警報器の修理完了の後消防審査が行われた。今年度中に消防訓練を行う予定である。災害備蓄品は事業所と、本部にも準備がある。</p>	<p>夜間の職員が手薄な状態での避難方法や連絡体制は常に確認され有事に備えていただきたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修や朝礼、スタッフ研修などで対応の仕方を学習し、気になる言葉を話し合い指摘したりしている。	家族から入居者の元気な時の一日の過ごし方や、生き生きしていた頃の話や好き嫌い等を聞き、参考にしながら入居者のことを一番に考えて接している。居室にもノックをして入室するようにしている。	入居者の特異な行動をむやみに否定せず、ひと呼吸置いて行動の意味を読み取ることを管理者は職員に指導している。その接し方が、今まで別の施設などで暴言を吐いて行き場に困っていた人の表情を穏やかに変えてきている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩、買い物、塗り絵や裁縫など本人の希望や残存能力に沿うようにして活動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歩行訓練のため、散歩などは積極的に取り入れているが、本人に確認を取ってから出かけている。お弁当やおやつを持っていたり、季節の花などを楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で髪をといたり、着替えの際に服の組み合わせを一緒に考えている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーや嫌いなものにはアレンジしている。下ごしらえや、配膳や後片付けが出来る人には手伝ってもらっている。	業者から材料を取り寄せ施設で調理を行っている。食べ残しを観察しながらメニューに変化を加えている。とろみ食ではなく柔らかく舌で潰せるくらいに調理することで高齢でも箸を使い食している。	入居者が、「朝も昼も美味しかった。夜ご飯が楽しみや」と話していた。高齢者にとり食は大きな楽しみである。これからは美味しい食事の提供を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握している。看護師を中心に職員全員で見守り、援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の検診を受けている。職員が見守り援助し、毎食後、全員歯磨き、義歯の人は外して洗浄、夜は洗浄液に浸けて保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	全職員で自立に向けた支援をしている。なるべく自立でトイレに行けるように促し、全介助の方でもトイレに行くように介助している	トイレまで付き添い、必ず一旦外に出てさりげなく覗きながら手助けをしている。90代半ばの入居者も職員はトイレの外で待ち、一人でトイレに入っている。長時間の後爽やかな表情で出てこられた。	さりげない介助が入居者の自尊心や活力に大きな影響を与えていることを拝見し、改めてトイレ支援の大切さを感じた。今後そのような支援の継続を願う。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師を中心に勉強会をもち、実際に役立っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に、ゆっくりと入浴できるように時間をとっている。曜日は決めているが、希望があれば入ってもらっている。	原則週に2回であるが、入居者の希望に合わせて入りたい時に入れるようにしている。機械浴はあるが使用している人はいない。入浴を嫌がる人には理由を聞く等して対応している。	入浴介助についても転倒に気をつけて、「背中を流しましょう」等声かけをしながらそっと手伝うようにしている。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>前夜の睡眠状況や疲労の状態に合わせて、随時昼寝や休息をとってもらっている。昼夜の活動の区別をはっきりつけて、夜間気持ちよく眠れるよう支援している</p>			
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>看護師を中心に介護職全員が服薬について研修を受け、理解し、服薬支援をしている。</p>			
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事や洗濯物の手伝いの役割を持ってもらったり、レクリエーション週間予定表を作り、毎日楽しみごとや気分転換をしてもらい、張り合いのある日々を過ごしている。</p>			
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>体力に応じた距離の散歩をしている。気候の良い日はドライブを兼ねての買い物などを個別で順番に行なっている。</p>	<p>周りに自然が多く、暖かくなると近くの公園にお茶を持って行ったり神社にどんぐりを拾いに行ったりする。車に乗ってドライブしたりスーパーへの買物と一緒に行く人もいる。</p>	<p>暖かくなると毎日必ず庭に出ている。景色の良い場所なので新鮮な空気を吸って地域の人との交流も出来るよう支援を続けられるよう期待している。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分でお金を持っており、散歩やバザーなどへ職員と一緒にいき、買い物をしてもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が出来ない場合は、手伝い、電話を掛けられるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設全体バリアフリーにしている居間兼食堂には大きな窓があり自然の景色が見え、採光も良い。広い廊下は車いすでも通りやすい。</p>	<p>一面の大きな窓から明るい日差しが入る。高台に位置することで自然の風や雪や大きな空を感じられる。バリアフリーである為入居者が車椅子を押して自由に部屋の中を歩き来している。</p>	<p>大きな日めくりカレンダーが設置され、午前中に職員がそうじし、清潔にしている。職員の言葉かけも穏やかで入居者は居心地よくされている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂では好きな場所に座って貰っている。多目的室や広い廊下で人と離れて静かに過ごしてもらえるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた者や本人の思い出のあるものなどを持ってきてもらっている。</p>	<p>楽器、囲碁、仏壇、写真、ひ孫からの作品等愛用品を持ち込み自分らしく生活されている様子が伺えた。</p>	<p>ベッドから落ちる恐れのある人は布団を使用するように変える等その人ができるだけ自立して生活できるよう工夫している。今後も自分の居心地の良い場所と思えるような暮らしを支援されることを期待する。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者同士の助け合いなど、積極的に自分でできる事を支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられれている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない